

## 桜美林大学におけるアメリカ型 A.O. 選抜導入の試み

安田 馨 (株式会社進研アド)  
出光直樹 (桜美林大学)

### 1、はじめに

当初アメリカの入学者選抜方式をモデルとして導入された AO 入試は、日本の入試システムの中でアメリカとは異なる独自の入試方式として確立してきた。既に 350 を超える大学が実施しており、AO 入試に関する導入事例は数多く紹介されているが、導入した後に抜本的な改革を試みた事例は少ない。

桜美林大学では 1999 年度から実施している AO 入学者選抜を、2003 年度より米国における選抜方法を元に再構築している。これは AO 入学者選抜の志願者の増加と、それに伴う選考業務の負担の増大によって、新たな選考方法を確立する必要があったことが直接の理由であるが、同時に職員の役割を見つめなおす良いきっかけとなっている。書類選考はすべて職員が担っており、2004 年度からは一部の学部の面接もすべて職員が行う方式を採用している。本研究では、職員主導型による AO 入学者選抜の成立過程、及び現状と課題を考察する。

### 2、桜美林大学の AO 選抜の特徴

AO 入試が一般化し多くの大学が実施するとともに、新たな問題として業務量の増大が挙げられる。書類、面接等で丁寧に選抜を行うことで、受験者一人当たりにかかる時間は非常に大きいものとなっている。

桜美林大学では書類選考および一部の学部の面接をすべてアドミッション・センター職員が行っている。これにより教員の業務負担は軽減されると同時に、学部による選抜基準のばらつきも解消した。書類選考では、まず主担当が書類を読み込み評価シートを作成する。その後、別の職員が再度副担当として読み込むことで、個人の主観に偏ることを防いでいる。書類選考通過者はアドミッション・センター職員で構成されるコミッティーにおいて決定されるが、必要に応じて主担当は評価シートをもとにプレゼンテーションを行い、受験者の評価点を訴える。

アンケート調査によると、書類選考では一人の職員が 92 名前後の書類を読みこみ、評価シートを作成している。受験者一人の評価シート作成に費やす時間は平均 43 分となっており、これを受験者数で積算すると、のべ 697 時間をアドミッション・センター職員が受け持っていることになる<sup>i</sup>。これは主担当としての書類読み込み時間であり、実際には副担当として再度書類の読み込みを行うので、合計すると 1000 時間を越えることとなる。

また入学者の最終決定については拡大代表者会議が担っているが、その構成員にもアドミッション・センター職員が加わっている<sup>ii</sup>。経営政策学部、および短期大学部では面接もすべて職員が担当しており、選考過程の全てを職員が担う形も採られはじめています。

### 3、AO 選抜の改革経緯

桜美林大学が AO 入学者選抜を導入したのは 1999 年度であり、全国的にも比較的早い導入で

あった。当時はそれまでに行っていた「自分推薦入試」を名称変更した形式であり、いわゆる自己推薦型 AO 選抜として教員主導で行われていた。こうして既に形が確立している入試を変えていくことは非常に困難が伴う。いかにして桜美林大学は職員主導の形へと変えていったのか。その経緯から読み取れる点として、以下の 3 点が大きな役割を果たしたと考えられる。

#### ① 全学組織のライン化

2001 年 4 月に、教学、学生、企画調整を柱とした大学組織のライン化を行っている。それぞれのラインに副学長を置くことで、責任を明確化することが目的であるが、これによりアドミッション・センターは学生担当副学長の担当として明確に位置づけられた。責任の所在が明確化することで、スムーズな改革が可能になったと考えられる。

#### ② 米国アドミッション・オフィスの調査

アドミッション・センターが学生担当のラインに位置づけられたことに伴い、大越学生担当副学長は米国のアドミッション・オフィスの調査を行っている。訪問した 10 大学でのヒアリング記録では、アドミッション・オフィスの組織のあり方やアドミッション・オフィサーの業務範囲等についての内容があり、桜美林大学の AO 入学者選抜が職員主導へと転換するきっかけとなっている。

#### ③ アドミッション・センター課長の米国派遣

米国のアドミッション・オフィス調査と同時期に、後藤アドミッション・センター課長は Oberlin College で約 9 ヶ月間、アドミッション・オフィサーとして勤務している。帰国後、その経験をもとに AO 入学者選抜の選考方法を大越副学長に提案しており、これが現在の形式となっている。書類選考において主担当、副担当を置き二重のチェックを行う点やコミッティーにおける選考の流れなど、複数の点で Oberlin College の選考方法がモデルとなっていることが窺える。

以上の経緯により、米国をモデルとした選考方法が導入された。しかし米国とは高校生に関する情報量が異なるなど環境の違いは大きい。提出書類を増やすことで情報収集に努めているが、受験生の負担が大きいといった問題も生じる可能性がある。

## 4、課題と今後について

AO 入試における職員の役割は今後益々重要となってくることは想像に難くない。実際に面接等に積極的に職員が関わる大学も増加してきている。今後はそこに教育・研究の業務を負う教員とは異なる部分で、職員がいかに付加価値をつけていけるかが問われてくることになる。

桜美林大学ではそのモデルを米国に求め、職員主導型の AO 入学者選抜という形に変えていった。改革は未だ途上であり結果の出る段階ではないが、組織面、選考過程においても米国をモデルとして再構築することは、今後の入試のあり方にひとつの方向性を指し示し、職員に新たな役割を生み出すきっかけとなるのではないだろうか。

---

<sup>i</sup> 2003 年度の AO 入学者選抜志願者数 (973 名) で計算。

<sup>ii</sup> 拡大代表者会議は、学生担当副学長、各学部長、入試委員、アドミッション・センター職員で構成される。



# 横浜市立大学の入学者選抜 平成 24(2012)年度募集の概要



- この表に記載されている内容は、平成 24(2012)年度募集の概要です。
- 具体的な選抜方法等は、平成 23(2011)年6月中旬発行の『平成 24 年度入学者選抜要項』および各選抜方式の募集要項でご確認ください。変更点の最新情報、過年度の募集要項や過去問題などは、本学ホームページ <http://www.yokohama-cu.ac.jp> にてご覧頂けます。

【問い合わせ先】アドミッションズセンター 045-787-2055 携帯サイト <http://ycu.jp>

国際総合科学部	一般選抜(前期)	<p><b>国際教養学系・経営科学系</b> センター試験(700点): 3教科3科目(英語、国語・地歴公民・数学より2教科2科目) 2次試験(300点): 論文</p> <p><b>理学系</b> センター試験(700点): 3教科5科目(英語、数学2科目、理科2科目) 2次試験(400点): 論文&lt;総合問題を含む&gt;</p>																														
	AO入試	<p>本学の理念や教育内容をよく理解し、国際総合科学部での勉学を強く希望する人を対象とした“自己推薦”による入試。年齢・国籍を問わず、大学入学資格を持つ人を広く対象にしています。</p> <p><b>国際教養学系・経営科学系・理学系</b> 1次書類審査 → 2次面接審査 ✓プレゼンテーション1「これまでの活動や取り組みで自己評価出来るもの」 ✓プレゼンテーション2「志望理由・入学後の目標」 ✓所定の英語資格 / 高等学校の調査書等</p>																														
<ul style="list-style-type: none"> <li>● この他、「推薦入学」(指定校制)、「海外帰国生特別選抜」、「外国人留学生特別選抜」、および「社会人特別選抜」(平成24年度新設)を実施します。</li> <li>● 推薦・AO・帰国生・留学生・社会人では、出願時に以下の英語資格が必要です。</li> </ul> <table border="1" style="margin-left: 20px;"> <thead> <tr> <th></th> <th>国際</th> <th>経営</th> <th>理学</th> <th></th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>推薦</td> <td>[C]</td> <td>[D]</td> <td>不要</td> <td>[A] TOEFL-PBT500(iBT61)、TOEIC600、GTEC for STUDENTS700、または英検準1級</td> </tr> <tr> <td>AO</td> <td>[B]</td> <td>[C]</td> <td></td> <td>[B] TOEFL-PBT460(iBT48)、TOEIC500、GTEC for STUDENTS600、または英検2級</td> </tr> <tr> <td>帰国生</td> <td>[A]</td> <td>[B]</td> <td></td> <td>[C] TOEFL-PBT417(iBT35)、TOEIC400、GTEC for STUDENTS500、または英検準2級</td> </tr> <tr> <td>留学生</td> <td colspan="3">[B]</td> <td>[D] TOEFL、TOEIC、GTEC for STUDENTS、または英検の何らかのスコア・級</td> </tr> <tr> <td>社会人</td> <td colspan="3">[A] ただし GTEC は含まない</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>				国際	経営	理学		推薦	[C]	[D]	不要	[A] TOEFL-PBT500(iBT61)、TOEIC600、GTEC for STUDENTS700、または英検準1級	AO	[B]	[C]		[B] TOEFL-PBT460(iBT48)、TOEIC500、GTEC for STUDENTS600、または英検2級	帰国生	[A]	[B]		[C] TOEFL-PBT417(iBT35)、TOEIC400、GTEC for STUDENTS500、または英検準2級	留学生	[B]			[D] TOEFL、TOEIC、GTEC for STUDENTS、または英検の何らかのスコア・級	社会人	[A] ただし GTEC は含まない			
	国際	経営	理学																													
推薦	[C]	[D]	不要	[A] TOEFL-PBT500(iBT61)、TOEIC600、GTEC for STUDENTS700、または英検準1級																												
AO	[B]	[C]		[B] TOEFL-PBT460(iBT48)、TOEIC500、GTEC for STUDENTS600、または英検2級																												
帰国生	[A]	[B]		[C] TOEFL-PBT417(iBT35)、TOEIC400、GTEC for STUDENTS500、または英検準2級																												
留学生	[B]			[D] TOEFL、TOEIC、GTEC for STUDENTS、または英検の何らかのスコア・級																												
社会人	[A] ただし GTEC は含まない																															
医学部	一般選抜(前期)	<p><b>医学科</b> センター試験(900点): 5教科7科目(英語、国語、地歴公民、数学2科目、理科2科目) 2次試験(1300点): 英語、数学、理科2科目、小論文、面接</p> <p><b>看護学科</b> センター試験(500点): 4教科4科目(英語、国語、数学、理科) 2次試験(250点): 論文</p>																														
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 看護学科ではこの他、「推薦入学」(指定校制)を実施します。</li> </ul>																															
<ul style="list-style-type: none"> <li>* いずれの学部とも、一般選抜は国公立大学前期日程のみの募集となり、公立大学中期日程、国公立大学後期日程の募集は行いません。また、編入学者の募集も行いません。</li> <li>* 平成 25(2013)年度入試では、一般選抜での教科科目・配点等の変更や、「センター試験を課す推薦入試」(公募制:国際総合科学部)の導入を予定しています。詳細はホームページをご覧ください。</li> </ul>																																

# 平成 23(2011)年度 横浜市立大学 入試結果

学部等 区分		国際総合科学部(国際総合科学科)				医学部			全学計
		国際教養学系	経営科学系	理学系	学部計	医学科	看護学科	学部計	
推薦入学	募集人員	40	70	35	145	—	10	10	155
	志願者数	40	65	35	140	—	8	8	148
	受験者数	40	65	35	140	—	8	8	148
	合格者数	40	65	35	140	—	8	8	148
	入学者数	40	65	35	140	—	8	8	148
A O 入 試	募集人員	30	10	10	50	—	—	—	50
	志願者数	103	57	23	183	—	—	—	183
	1次合格者数	66	22	21	109	—	—	—	109
	2次受験者数	63	22	21	106	—	—	—	106
	2次合格者数	30	10	10	50	—	—	—	50
	入学者数	29	10	10	49	—	—	—	49
海 外 帰 国 生	募集人員	若干名	若干名	若干名	若干名	—	—	—	若干名
	志願者数	28	15	4	47	—	—	—	47
	受験者数	24	10	4	38	—	—	—	38
	合格者数	12	7	1	20	—	—	—	20
	入学者数	8	4	1	13	—	—	—	13
留 学 生	募集人員	若干名	若干名	若干名	若干名	—	—	—	若干名
	志願者数	6	24	6	36	—	—	—	36
	受験者数	6	22	5	33	—	—	—	33
	合格者数	4	12	4	20	—	—	—	20
	入学者数	2	12	4	18	—	—	—	18
一 般 選 抜	募集人員	140	240	75	455	90	80	170	625
	志願者数	722	1177	314	2213	469	336	805	3018
	受験者数	592	981	287	1860	(1) 291	316	607	2467
	合格者数	260	393	116	769	97	106	203	972
	入学者数	142	248	90	480	90	85	175	655
合 計	募集人員	210	320	120	650	90	90	180	830
	志願者数	899	1338	382	2619	469	344	813	3432
	受験者数	725	1100	352	2177	291	324	615	2792
	合格者数	346	487	166	999	97	114	211	1210
	入学者数	221	339	140	700	90	93	183	883
(2) 編 入 学	募集人員	—	—	—	—	—	20	20	20
	志願者数	—	—	—	—	—	82	82	82
	受験者数	—	—	—	—	—	82	82	82
	合格者数	—	—	—	—	—	26	26	26
	入学者数	—	—	—	—	—	20	20	20

(1) 医学部医学科の一般選抜受験者数は、第一次選抜実施後の人数(第一次選抜合格者数 298 人)。

(2) 編入学者の募集は、平成 23(2011)年度をもって終了しました。

## 一般選抜 合格者平均点・最低点

学部	学科・学系	募集人員	合格者数	配点			合格者		
							平均点		最低点
				センター	二次	合計	センター	二次	合計
国際総合科学部	国際教養学系	140	250	700	300	1,000	581.9	137.2	686.0
	経営科学系	240	393	700	300	1,000	567.5	175.9	703.2
	理学系	75	116	700	400	1,100	526.2	272.3	745.4
医学部	医学科	90	90	900	1,300	2,200	787.0	842.9	1536.2
	看護学科	80	106	500	250	750	376.3	137.5	482.1

\*この表には、追加合格者の人数・点数は含まれていません。

\*医学部では、以下の場合には合計点にかかわらず不合格となる事があります。

【医学科】面接の評価(段階評価で合計点に含まない)が一定の水準以下の場合。【看護学科】二次試験の評価が一定の水準以下の場合。

## 一般選抜 第一次選抜合格者平均点・最低点

学部	学科	募集人員	合格者数	センター配点	第一次選抜合格者	
					平均点	最低点
医学部	医学科	90	298	900	771.6	729.4

# 平成24（2012）年度 横浜市立大学 国際総合科学部 推薦入学（指定校）学生募集要項

<略>

### 3 被推薦資格

高等学校（中等教育学校の後期課程を含む。以下同じ）を平成24年3月に卒業見込みの者で、次に掲げる基準を満たす者。

国際総合科学部 国際教養学系	次の(1)、(2)いずれにも該当する者 (1) 高等学校在学中の学業成績が、次のア・イいずれかに該当する者 ア. 全体の評定平均値が <b>指定値以上</b> の者 イ. 「国語、数学、外国語（英語）」、「国語、地歴、外国語（英語）」または「国語、公民、外国語（英語）」の評定平均値の平均*が <b>指定値以上</b> の者 (2) TOEFL-PBT 417点（iBT 35点）以上、TOEIC 400点以上、GTEC for STUDENTS 500点以上、または実用英語技能検定（英検）準2級以上のいずれかのスコア・級を有し、公式な証明書を提出できる者	
国際総合科学部 経営科学系	次の(1)、(2)いずれにも該当する者 (1) 高等学校在学中の学業成績が、次のア・イいずれかに該当する者 ア. 全体の評定平均値が <b>指定値以上</b> の者 イ. 「国語、数学、外国語（英語）」、「国語、地歴、外国語（英語）」または「国語、公民、外国語（英語）」の評定平均値の平均*が <b>指定値以上</b> の者 (2) TOEFL-PBT（iBT）、TOEIC、GTEC for STUDENTS、または実用英語技能検定（英検）のいずれかのスコア・級を有し、公式な証明書を提出できる者（水準不問） ※出願期間の直前に受験済みの場合も、後から速やかに証明書を提出することを条件に出願を認める。この場合は、事前に本学まで問い合わせのこと。	
国際総合科学部 理 学 系	次の(1)、(2)いずれにも該当する者 (1) 高等学校在学中の学業成績が、次のア・イいずれかに該当する者 ア. 全体の評定平均値が <b>指定値以上</b> の者 イ. 「数学、理科、外国語（英語）」の評定平均値の平均*が <b>指定値以上</b> の者 ※ 数学Ⅲおよび数学Cの評定が共に 4.0 以上の者は、上記ア・イの“指定値以上”を“3.5 以上”と読みかえることができる。 (2) 「物理Ⅰおよび物理Ⅱ」、「化学Ⅰおよび化学Ⅱ」、「生物Ⅰおよび生物Ⅱ」のうち、いずれか2つの科目群を修得または修得見込みの者 ※ 上記に指定する科目と同様の内容を、他の名称の科目で履修している場合は、その旨の学校長名の証明を調査書に添付すること。	
	チャレンジ プログラム	横浜サイエンスフロンティア高等学校と横浜市立大学が実施する「チャレンジプログラム」に合格した者
<b>【英語資格を有する者の特例：各学系共通】</b> TOEFL-PBT 460点（iBT 48点）以上、TOEIC 500点以上、GTEC for STUDENTS 600点以上、または実用英語技能検定（英検）2級以上の資格を有し公式な証明書を提出できる者は、上記(1)ア・イの“指定値以上”を“3.5 以上”と読みかえることができる。		
*対象となる各教科の評定平均値を単純平均し、小数点以下第2位で四捨五入した値。 {TOEFL-ITP、TOEIC-IPの取扱について} 志願者の在籍する高等学校が実施団体の場合のみ認められます。		

<略>



# 横浜市立大学 国際総合科学部

資料4

## A O 入試

### 平成 24 (2012) 年度募集の概要

募集人員 (昨年度志願倍率)	国際教養学系 30名 (3.4倍)	経営科学系 10名 (5.7倍)	理学系 10名 (2.3倍)
<b>出願要件 次のいずれにも該当する者</b> (1) 横浜市立大学と国際総合科学部の理念や教育内容をよく理解し、国際総合科学部への志望理由や入学後の構想(何をどう学びたいか、これまで自分が取り組んで得た能力・知識をどう深め、また広げて活かしていくか)が明確で、それを実現するに十分な意欲と能力を有する者 (2) 学業、社会人経験などを通じて、さまざまな活動に積極的に取り組み、成果をあげていると自己評価できる者 (3) 本学への入学を強く希望し、合格した場合には入学することを確約できる者 (4) 下記に定める資格のスコア・級を有し、公式な成績証明書を提出できる者 <但し、TOEFL-ITP、TOEIC-IP、GTEC for Students の非公式 SCORE は、認められません> 国際教養学系・経営科学系：英検 2 級、TOEFL-PBT 460 (iBT 48)、TOEIC 500、GTEC for STUDENTS 600 以上 理学系：英検準 2 級、TOEFL-PBT 417 (iBT 35)、TOEIC 400、GTEC for STUDENTS 500 以上			
<b>★理学系での優遇措置★</b> 「全国物理コンテスト 第 1 チャレンジ」「全国高校化学グランプリ 1 次選考」「日本生物学オリンピック 予選」の通過者は、A O 入試第 1 次選考(書類審査)の評価にかかわらず、第 2 次選考(面接審査)に進む事が出来ます。			

第 1 次選考	出願期間 2011年8月29日(月)～31日(水)		
	書類審査<100点満点> 以下の提出書類により、総合的に審査		
	70点	<ul style="list-style-type: none"> <li>●プレゼンテーション(発表)概要1 「これまでの活動や取り組みで自己評価できるもの」</li> <li>●プレゼンテーション(発表)概要2 「志望理由・入学後の目標」</li> </ul>	* 様式を中のページに縮小して掲載
	30点	<ul style="list-style-type: none"> <li>●英語資格の級・スコア</li> <li>●高等学校の調査書等</li> </ul>	
1次合格発表 9月30日(金)			



第 2 次選考	試験日 10月15日(土)		
	面接審査<100点満点> 1人30分程度の個人面接		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>● 提出したプレゼンテーション概要1・2にもとづく発表と質疑応答、および各学系に関連した基礎知識やその他総合的な事に関する質疑応答</li> <li>● 発表の際は、ポスター等の掲示物を使用することも可能</li> </ul>		
最終合格発表 10月25日(火) <書類審査と面接審査の合計点で総合評価>			

#### 募集要項(願書)の配付

7月上旬より配付予定。本学のホームページ( <http://www.yokohama-cu.ac.jp> )

または携帯サイト( <http://ycu.jp> )より請求できます。

# 国際総合科学部の特別選抜における 英語資格に関する出願要件の変遷

平成23年4月現在

## 平成17(2005)年度入試

- 国際総合科学部の発足

	国際教養学系	経営科学系	理学系
推薦	提出不要		
AO	提出不要		
帰国生	TOEFL-PBT423、TOEIC425		
留学生	TOEFL-PBT423、TOEIC425		

## 平成19(2007)年度入試

- AO入試において、英語資格の提出を義務化

	国際教養学系	経営科学系	理学系
推薦	提出不要		
AO	<u>要提出(級不問)</u>		
帰国生	TOEFL-PBT423、TOEIC425		
留学生	TOEFL-PBT423、TOEIC425		

## 平成21(2009)年度入試

- 帰国生・留学生の水準を引き上げ。

	国際教養学系	経営科学系	理学系
推薦	提出不要		
AO	要提出(級不問)		
帰国生	<u>TOEFL-PBT460 (iBT48)、TOEIC500</u>		
留学生	<u>TOEFL-PBT443 (iBT43)、TOEIC460</u>		

## 平成22(2010)年度入試

- AO(国際教養学系・経営科学系)で水準を設定。

	国際教養学系	経営科学系	理学系
推薦	提出不要		
AO	<u>英検準2級レベル</u>		要提出(級不問)
帰国生	TOEFL-PBT460 (iBT48)、TOEIC500		
留学生	TOEFL-PBT443 (iBT43)、TOEIC460		

英検準2級レベル： TOEFL-PBT417 (iBT35)、TOEIC400、英検準2級

### 平成23(2011)年度入試

- 推薦（国際教養学系）、A O（国際教養学系、理学系）、帰国生（国際教養学系、経営科学系）の水準を引き上げ。
- 帰国生（理学系）で英検も対象に含める（水準は同一）。

	国際教養学系	経営科学系	理学系
推薦	<u>要提出（級不問）</u>	提出不要	
A O	<u>英検2級レベル</u>	英検準2級レベル	<u>英検準2級レベル</u>
帰国生	<u>P E免除レベル</u>		<u>英検2級レベル</u>
留学生	TOEFL-PBT443 (iBT43)、TOEIC460		

P E免除レベル： TOEFL-PBT500 (iBT61)、TOEIC600、英検準1級  
 英検2級レベル： TOEFL-PBT460 (iBT48)、TOEIC500、英検2級  
 英検準2級レベル： TOEFL-PBT417 (iBT35)、TOEIC400、英検準2級

### 平成24(2012)年度入試

- 推薦（国際教養学系・経営科学系）、A O（経営科学系）、留学生の水準を引き上げ。
- 社会人選抜の新設。
- GTEC for STUDENTS を対応資格に追加。

	国際教養学系	経営科学系	理学系
推薦	<u>英検準2級レベル</u>	<u>要提出（級不問）</u>	提出不要
A O	英検2級レベル	<u>英検2級レベル</u>	英検準2級レベル
帰国生	P E免除レベル		英検2級レベル
留学生	<u>英検2級レベル</u>		
社会人	<u>P E免除レベル（但しGTEC-Stを除く）</u>		

P E免除レベル： TOEFL-PBT500 (iBT61)、TOEIC600、GTEC-St700、英検準1級  
 英検2級レベル： TOEFL-PBT460 (iBT48)、TOEIC500、GTEC-St600、英検2級  
 英検準2級レベル： TOEFL-PBT417 (iBT35)、TOEIC400、GTEC-St500、英検準2級